
遊び人

文学茶釜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊び人

【Nコード】

N4595H

【作者名】

文学茶釜

【あらすじ】

働くのが面倒で、ニートに成り下がった私。改心して働いても、うまくいかない私。そんな私を描いた物語。自伝的小説のようですが、完全にフィクションです。

第一章

私は失業していた。かといって、働き口が無いという訳ではない。働くのが厭いやだから働かないのだ。昔は“失業者”とでも言っていたらしいが、現在世では“ニート”という呼び名が一般的になってきているらしい。

私は家族から軽蔑けいべつされていた。放埒野郎ほうちやん、色きちがい、遊蕩児ゆうたうじなどと散々に罵ののしられていた。しかし、私はそれを気にもしなかった。

私は親の脛すねを齧かじって生きている。両親によく命令めいれいをしている。屡しばしば「部屋へいに籠こもっていて、苦しくないのか。」とか、「あんたは親にこんな仕打ちをして、恩あだを仇あだで返すんだねえ。」などと言われる。私はそれも気にしないつもりだった。しかし、心の片隅では気に懸かけているのであった。

私はなんだか自身が厭いやになってきた。頭がおかしくなったような気がする。

数年後、私は決心した。働こう、と。このままでは駄目だ、社会に貢献しよう、親孝行をしよう、と。しかし、家から出る仕事は厭いやだ。家で出来る仕事。小説家であった。

私は自らの生い立ちを小説にして書き記した。執筆中の私を見て、両親は泣いてくれた。三ヶ月程かけて原稿用紙千枚分も書くと、それを賞に出場させた。題名は“遊び人”という。

結果、一次選考で落ちた。両親は悲しんでいた。私は号泣した。原稿用紙を破り捨てた。足で踏んづけ、いつのまにか塵箱ちみばこへ捨てて

いた。

私は再び“二ト”に成り下がった。私は嘆いていた。謹厳な小説家になりたかった。

今度の一次選考落ちは、一概に私の小説の出来が酷かったから落ちたとも言えない。審査員が不真面目だったのだ。こんなに素晴らしい小説なのに。なんて酷い審査員だ。

その時、私の興奮は頂点に達していた。私は台所へ急ぐと、徐に包丁を取り出し、腹に当てた。呻き声が出る。予想以上の痛さに、私はそれをやめる。包丁を片付け、今度はパン切りナイフを腹に押し当てる。激痛が走る。それでも、私は押し当てるのをやめなかった。自我を失い、心が迷走していたのである。

他にも、臀部、腕など、ありとあらゆるところにナイフを押し当てていた。体中に細かな傷が出来ていた。私は自我を取り戻してから、自分のやってしまった大変なことに気がついた。

私は、こんなにも気が病んでいたのか。

私は、自分が本当に厭になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4595h/>

遊び人

2010年10月10日06時54分発行